

書物の国のアリス

平成4年9月29日(月)～10月23日(金)

ルイス・キャロルことチャールズ・ラトウィジ・ドジソンが『アリス』の原型となる物語を初めて少女たちに語って聞かせてから、130年がたちました。この間に、『アリス』をめぐるなされた研究は言語学・論理学から精神分析の領域にまで及び、またキャロルの評伝も数多く刊行されています。一方、主人公のアリスはファンタジーの代表的なキャラクターとして、また未知の世界へ分け入っていく純粋な好奇心の象徴として、たびたび他の書物に引用されるようになりました。

今回の常設展示では、『アリス』の翻訳・研究書、アリスの登場するさまざまな本の中から、その一端をご紹介します。

展示リスト

1. 愛ちゃんの夢物語

ルイス・キャロル 著 丸山 薄夜 訳

東京 内外出版協会 1910 209p

<32-441>

『アリス』の最初の邦訳。主人公の名前は「愛子」に置きかえられている

2. アリス物語

永代 静雄 著

東京 紅葉堂書店 1912 238p

<児乙部12-N-1>

『不思議の国のアリス』に独自の展開を加えたファンタジー

3. ふしぎなお庭 まりちゃんの夢の國旅行

鷺尾 知治 編 齋田 喬 画

東京 イデア書院 1925 144p

<児乙部25-W>

『不思議の国のアリス』の翻案。

4. ふしぎの国のアリス 世界絵文庫(38)

三島 由紀夫 著 熊田 五郎 画

東京 あかね書房 1952 65p

<児933-M525h>

日本の作家が、世界各国の名作を子供向けの読み物として書きあらためたシリーズ「世界絵文庫」の中の一冊

5. ふしぎの国のアリス

ルイス・キャロル 著 北村 太郎 訳

東京 王国社 1987 189p

<KS153-535>

詩人・翻訳家の北村太郎による翻訳。挿画はキャロル自身が描いたもの

6. 不思議の国のアリス

ルイス・キャロル 著 高橋 康也・迪 訳

東京 新書館 1985 189p

<KS153-491>

『アリス』の捜画ではジョン・テニエルに次いで有名な、アーサー・ラッカムによる挿し絵を収録

7. アリスのいる風景 写真でみるキャロル伝

ジョン・パドニー著 石毛 雅章 訳

東京 東京図書株式会社 1989 257p

<KS113-E9>

多くの図版・写真資料をおりまぜて描いたルイス・キャロルの生涯

8. アリス幻想

高橋 康也 編

東京 すばる書房 1976 141p

<KS113-15>

『アリス』をめぐるエッセイ・イラストレーション、創作童話などを集めた一冊

9. ヴィクトリア朝のアリスたち ルイス・キャロル写真集

高橋 康也 編

東京 新書館 1988 99p

<KS113-E8>

ルイス・キャロルが撮影した少女たちの写真集

10. アリスの絵本 アリスの不思議な世界

高橋 康也 編

東京 牧神社 1973 139p

<KS113-7>

